



ご挨拶

東北伝道協力会発足にあたって

ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」

(使徒：18：9-10)

「東北伝道の幻」を求めて、2022年に東北伝道協力会は結成されました。東北6県は、過疎化の進む地域であり、また2011年に発生した東日本大震災においては太平洋沿岸を中心に甚大な被害を受けました。震災からおよそ10年が経ちましたが、物質的復興は進む一方で人々の精神的復興は看過されたままにあります。このような中でイエス・キリストの福音こそが、人間にとっての真の慰めであるという確信に立ち、教派的伝統の違いを超えて、東北にある諸教会のために祈りを合わせる有志の会として東北伝道協力会は発足しました。

「恐れるな。語り続けよ」との御言葉に従い、明治時代以降、東北地方でも多くの牧師・宣教師が活動してきました。東北伝道協力会は、その伝道の精神と歴史的遺産を継承しつつ、現代の諸課題を共有し、伝道の方策を模索していくことを目指します。

東北地方には、真の慰め、真の救い主を待ち望む「民が大勢いる」ことを、希望を持って信じます。東北伝道協力会では、東北伝道の務めを、主から教会に委託された厳粛な使命として受け止めます。そして、主が「共にいてくださる」ことに畏れと喜びを持って、諸教会の協力の中で主の福音が告げ知らされ、この地の救いが実現していくことを願い求めます。主が、東北伝道協力会の素志を嘉したまい、御旨の成就のために用いてくださいますように。

アーメン。

東北伝道協力会有志一同



講師よりセミナーに向けてのご挨拶

講演題：「違いがありつつ、一つ ～四福音書の相違と相互補完性」

「新約聖書の中には四つの福音書が収められています。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ福音書の四つです。これらの四つの福音書がそれぞれ異なった視点を持っていることはよく知られている通りです。四つの福音書にはそれぞれ固有の視点があり、相違があります。そしてそれらの相違をそのままに保存しているのが、現在私たちが手にしている新約聖書の特徴です。今回の講演では、「四福音書の相違と相互補完性」について、わたしなりの仮説をお伝えしたいと思います。四福音書は「違いがありつつ、一つ」の関係性にあるというのが私の考えです。この「違いがありつつ、一つ」である在り方を改めて提示してゆくことは、キリスト教会においてのみならず、私たちが生きる社会においても重要な指針になり得るのではないかと考えています。

聖書について、またキリスト教についてご関心のある方は、どなたでもご参加ください。」

